

平成27年度 大学院人文科学府修士課程第1期入学試験問題
(言語学)

問1の解答は1枚目の解答用紙、問2は2枚目の解答用紙、問3は3枚目の解答用紙、問4は4枚目の解答用紙に書くこと。その際、問1-1などと記し、どの問に対する解答かを明示すること。

問1.

以下は、ある言語における動詞活用の表層形を挙げたものである。

	imperative	dubitative	passive aorist	
(1)	xatk'a	xatal	xatit	“eat”
(2)	dubk'a	dubal	dubut	“lead by hand”
(3)	ʃapk'a	ʃa:pal	ʃa:pit	“burn”
(4)	mek'k'a	me:k'al	me:k'it	“swallow”
(5)	p'axatk'a	p'axa:tal	p'axa:tit	“mourn”
(6)	paʔitk'a	paʔtal	paʔtit	“fight”
(7)	ʔilikk'a	ʔilkal	ʔilkit	“sing”
(8)	ʔajjk'a	ʔajjal	ʔajjit	“pole a boat”
(9)	ʔa:milk'a	ʔamlal	ʔamlit	“help”
(10)	ʃa:lik'k'a	ʃalk'al	ʃalk'it	“wake up”

問1-1.

上記のデータだけをもとにして、imperative, dubitative, passive aoristそれぞれを表す形態素を抽出し、列挙しなさい。

問1-2.

(1), (3), (6), (10)の語幹の基底形を書きなさい。

問1-3.

(1), (3), (6), (10)を例に、上記(1)から(10)すべてのデータを説明できる音韻規則（語幹の基底形から表層形を導く音韻規則）とそれらの適用順序を書きなさい。

問 2 .

次の文章には、言語についての 2 つの見方が書かれている。どういう見方か、簡潔に答えなさい。

著作権保護のため、この Web 公開版では問題文を削除した。
引用箇所は以下のとおりである。

Larson, Rechar K. (2010) *Grammar as Science*. The MIT Press, p.5.

第 2 段落の 3 行目の Language 以下。

問 3 .

次の日本語の文はどのような構造をしていると考えますか。「正解」となる樹形図が1つに決まっているわけではないので、自分の分析にしたがって樹形図を書きなさい。また、その分析で仮定されていることの中で、異論がありそうな点について、自分が採用した分析の理由・根拠を述べなさい。

あのパーティでは、まずい料理を食べさせられた。

問 4 .

言語類型論的にみると、形容詞という品詞が名詞的な振る舞いをする言語と、動詞的な振る舞いをする言語に大別できる。これを踏まえ、日本語のイ形容詞について、以下の問いに答えよ。

問 4 - 1 . 日本語の品詞体系において、イ形容詞は動詞と名詞のいずれに近いといえるか。その根拠も示しなさい。

問 4 - 2 . イ形容詞を動詞ないし名詞の下位分類とせず、形容詞という第三の品詞に分類するのはなぜか。具体的な根拠を示しながら議論しなさい。